

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
古代日本文学研究A(散文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日 本文学領域	1	4	古代日本文学における散文を輪読する。古典文学読解の基礎能力や、神話や物語の話型、作中和歌の特徴などの基本的理解をふまえたうえで、神話や物語がかかえている諸問題を掘り起こすために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1.神話や物語の話型を説明できる。（知識・理解） 2.作中和歌と神話・物語の関係性について説明できる。（知識・理解） 3.神話・物語を精読し、そこに含まれる諸問題を提起できる。（思考・判断・表現） 4.自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。（思考・判断・表現）	1.神話や物語の話型を基本的に説明できる。（知識・理解） 2.作中和歌と神話・物語の関係性について基本的に説明できる。（知識・理解） 3.神話・物語を精読し、そこに含まれる諸問題をある程度提起できる。（思考・判断・表現） 4.自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。（思考・判断・表現）
古代日本文学研究B(韻文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日 本文学領域	1	4	古代日本文学における韻文を輪読する。韻文、特に和歌は古代文学の中心を成すものであり、まずはそのことに関する文学史的基本知識と、当時の文化・社会の状況、和歌そのものの成り立ちなどについての基本知識をふまえて、一首ずつ丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1、古代日本文学における和歌史を、当時の文化や社会の状況もふまえて説明することができる（知識・理解） 2、和歌資料を調査し分析することができる（技能） 3、先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、自らの説を立ち上げることができる（思考・判断・表現） 4、和歌を読解・鑑賞することができる（思考・判断・表現） 5、4.自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。（思考・判断・表現）	1、古代日本文学における和歌史の流れを説明することができる（知識・理解） 2、和歌資料を調査し分析する方法を身につけている（技能） 3、先行研究を整理し、問題点を見つけ出すことができる（思考・判断・表現） 4、和歌を読解・鑑賞することができる（思考・判断・表現） 5、自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。（思考・判断・表現）
中・近世日本文学研究A(散文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日 本文学領域	1	4	この授業では、中・近世文学における散文を取り上げて輪読する。中・近世の散文はそれ以前の文学の影響を強く受けたものであり、まずはそのことに関する文学史的基本知識の確認をふまえて、作品を丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を実践してゆく。	1、中・近世日本文学における散文史を、当時の文化や社会の状況もふまえて説明することができる（知識・理解） 2、中・近世の散文資料を調査し分析することができる（技能） 3、先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、自らの説を立ち上げることができる（思考・判断・表現） 4、中・近世の散文を読解・鑑賞することができる（思考・判断・表現） 5、自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。（思考・判断・表現）	1、中・近世日本文学における和歌史の流れを説明することができる（知識・理解） 2、中・近世の資料を調査し分析する方法を身につけている（技能） 3、先行研究を整理し、問題点を見つけ出すことができる（思考・判断・表現） 4、中・近世の散文を読解・鑑賞することができる（思考・判断・表現） 5、自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。（思考・判断・表現）
中・近世日本文学研究B(韻文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日 本文学領域	1	4	中・近世文学における韻文を輪読する。韻文、特に和歌は古典文学における主要な文学ジャンルであり、まずは、そのことに関する文学史的基本知識の確認をふまえて、一首ずつ丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1、中近世日本文学における韻文の歴史を、ジャンルの変遷や文化・社会の状況もふまえて説明することができる（知識・理解） 2、和歌・連歌・俳諧等に関する資料を調査、分析し、適切な注釈を付けることができる（知識・理解） 3、先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、自らの解釈を提示することができる（思考・判断・表現） 4、3に基づき、中近世韻文作品に関する優れた研究を行う（思考・判断・表現）	1、中近世日本文学における韻文の歴史の流れを説明することができる（知識・理解） 2、和歌・連歌・俳諧等に関する資料を調査し分析する方法を身につけている（知識・理解） 3、先行研究を整理し、問題点を見つけ出すことができる（思考・判断・表現） 4、3に基づき、中近世韻文作品に関するレポートを執筆することができる（思考・判断・表現）
近代日本文学研究A(散文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日 本文学領域	1	4	近代文学における散文を輪読する。具体的には、文学史および研究史の基本的知識を確認したうえで、作品を読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1、文学史および研究史の中に、対象とする近代散文を位置づけ評価することができる。（知識・理解） 2、近代散文を鑑賞するための専門的な読解技術が身に付いている。（知識・理解） 3、近代散文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる。（関心・意欲・態度） 4、自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。（思考・判断・表現）	1、文学史および研究史の中に、対象とする近代散文を位置づけ評価することがある程度はできる。（知識・理解） 2、近代散文を鑑賞するための専門的な読解技術がある程度は身に付いている。（知識・理解） 3、近代散文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することがある程度はできる。（関心・意欲・態度） 4、自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。（思考・判断・表現）
近代日本文学研究B(韻文)	文芸学研究科 文芸学専攻 日 本文学領域	1	4	近代文学における韻文を輪読する。具体的には、文学史および研究史の基本的知識を確認したうえで、作品を読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1、文学史および研究史の中に、対象とする近代韻文を位置づけ評価することができる。（知識・理解） 2、近代韻文を鑑賞するための専門的な読解技術が身に付いている。（知識・理解） 3、近代韻文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる。（関心・意欲・態度） 4、自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。（思考・判断・表現）	1、文学史および研究史の中に、対象とする近代韻文を位置づけ評価することがある程度はできる。（知識・理解） 2、近代韻文を鑑賞するための専門的な読解技術がある程度は身に付いている。（知識・理解） 3、近代韻文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することがある程度はできる。（関心・意欲・態度） 4、自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。（思考・判断・表現）
日本語研究A(古代語)	文芸学研究科 文芸学専攻 日 本文学領域	1	4	古代日本語について、文学研究にも資することをめざして、さまざまな観点からの調査・研究を行う。古代日本語は近代日本語とはいろいろな点で異なり、内省もきかないものであるから、まずはその点に関する基本的な知識とともに、古代日本語を調査するにあたっての方法を学び、それを具体的な古典作品に適用する。	1、古代日本語に関する専門的な知識を習得し、古代日本語の特徴を理解できるようになる。（知識・理解） 2、古代日本語を調査するための方法・技能が十分使えるようになる。（技能） 3、古代日本語による表現のありように即して思考・判断し、その結果を口頭あるいは文章で表現できるようになる。（思考・判断・表現） 4、この科目をとおして、古代日本語あるいは古代文学に対する関心・意欲・態度を研究レベルまで強めることができるようになる。（関心・意欲・態度）	1、古代日本語に関する専門的な知識をある程度は習得し、古代日本語の特徴の幾分かを理解できるようになる。（知識・理解） 2、古代日本語を調査するための方法・技能が一通り使えるようになる。（技能） 3、古代日本語による表現のありように即して思考・判断し、その結果を口頭あるいは文章で最低限は表現できるようになる。（思考・判断・表現） 4、この科目をとおして、古代日本語あるいは古代文学に対する関心・意欲・態度を一応強めることができるようになる。（関心・意欲・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
日本語研究B (近代語)	文芸学研究科 文芸学専攻 日 本文学領域	1	4	近代日本語について、文学研究にも資することをめざして、さまざまな観点からの調査・研究を行う。まずは近代日本語に関する基本的な知識とともに、近代日本語を調査するにあたっての方法を学び、それを具体的な近代文学作品に適用する。	1. 日本語の歴史における近代語の特徴を知りその時代的な位置付けをすることができる。(知識・理解) 2. 近代語全体の様相に関する知識が身につけている。(知識・理解) 3. 近代語の実態を明らかにするための語学的な調査や分析の知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる。(関心・意欲・態度) 4. 自らの提起した問題・課題を客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)	1. 日本語の歴史における近代語の特徴を知りその時代的な位置付けをすることができる程度はできる。(知識・理解) 2. 近代語全体の様相に関する知識がある程度は身につけている。(知識・理解) 3. 近代語の実態を明らかにするための語学的な調査や分析の知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる程度はできる。(関心・意欲・態度) 4. 自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(思考・判断・表現)
漢文学研究	文芸学研究科 文芸学専攻 日 本文学領域	1	4	漢文学作品を精読し、その文学史上、また思想上の意義を明らかにする。漢文訓読の基礎と、日本文学に大きな影響を与えた中国の歴史、また思想、文学に関わる基本的知識をふまえ、作品を精読・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法を身につける。	1. 漢文および漢文学に関する専門的な知識を習得し、その世界が十分に理解できるようになる。(知識・理解) 2. 白文の読解練習をとおして、漢文訓読の技能が大学院レベルで身に付く。(技能) 3. 漢文学との特徴を捉え、日本文学との相異に関して思考・判断し、その成果を口頭あるいは文章で適切に表現できるようになる。(思考・判断・表現) 4. 漢文学の日本文学に対する影響に関する広範な関心と、その影響に関する意欲と態度を研究レベルまで強めることができるようになる。(関心・意欲・態度)	1. 漢文および漢文学に関する専門的な知識を習得し、その世界がある程度は理解できるようになる。(知識・理解) 2. 白文の読解練習をとおして、漢文訓読の技能が学部レベル以上で身に付く。(技能) 3. 漢文学との特徴を捉え、日本文学との相異に関して思考・判断し、その成果を口頭あるいは文章でほぼ表現できるようになる。(思考・判断・表現) 4. 漢文学の日本文学に対する影響に関する広範な関心と、その影響に関する意欲と態度を相応に強めることができるようになる。(関心・意欲・態度)
書誌学研究	イギリス文学文化研究B	1	4	所謂「和本网ラシー」について、古代から現代に至るメディアの変遷を軸に、具体的なモノとしての文献資料の性質とその扱い方を実践的に取り扱う。さらには現代の機械可読テキストや電子化された画像メディアについても、それぞれのメディアの特質と限界とについて具体的かつ詳細に検討する。	1. 文献資料(書物)についての深い書誌学的知識を獲得する。(知識・理解) 2. 毛筆文字や変体仮名を読むためのスキルを身につける。(技能) 3. 2に基づいて高度な書誌調査を実施し、課題の発見や考察を行うことができる。(思考・判断・表現)	1. 文献資料(書物)についての書誌学的知識を身につける。(知識・理解) 2. 毛筆文字や変体仮名を読むことができるようになる。(技能) 3. 2に基づいて書誌調査を実践する。(思考・判断・表現)
日本文学基礎研究A(古代文学)	文芸学研究科 文芸学専攻 日 本文学領域	1	4	上中古・近世日本文学作品のうちから、対象を絞り精読することによって、その作品の特質や問題点を具体的に理解する。また、その作品が当時の、あるいは現在の社会においても意義についても理解する。また、演習形式を取ることに伴って、問題を提起し、客観的手法によって課題を解決する能力を身につける。	1.対象作品の表現における特徴を説明できる。(知識・理解) 2.対象作品の時代背景、社会とのかかわりについて十分説明することができる。(知識・理解) 3.対象作品を理解するための着眼点を十分に提起することができる。(思考・判断・表現) 4.対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によって解決することができる。(思考・判断・表現)	1.対象作品の表現における特徴を基本的に説明できる。(知識・理解) 2.対象作品の時代背景、社会とのかかわりについてある程度説明することができる。(知識・理解) 3.対象作品を理解するための着眼点がある程度提起することができる。(思考・判断・表現) 4.対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によってある程度解決することができる。(思考・判断・表現)
日本文学基礎研究B(近代文学)	文芸学研究科 文芸学専攻 日 本文学領域	1	4	近代日本文学作品のうちから、対象を絞り精読することによって、その作品の特質や問題点を具体的に理解する。また、その作品が当時の、あるいは現在の社会においても意義についても理解する。また、演習形式を取ることに伴って、問題を提起し、客観的手法によって課題を解決する能力を身につける。	1.対象作品の表現における特徴を説明できる。(知識・理解) 2.対象作品の時代背景、社会とのかかわりについて十分説明することができる。(知識・理解) 3.対象作品を理解するための着眼点を十分に提起することができる。(思考・判断・表現) 4.対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によって解決することができる。(思考・判断・表現)	1.対象作品の表現における特徴を基本的に説明できる。(知識・理解) 2.対象作品の時代背景、社会とのかかわりについてある程度説明することができる。(知識・理解) 3.対象作品を理解するための着眼点がある程度提起することができる。(思考・判断・表現) 4.対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的な手法によってある程度解決することができる。(思考・判断・表現)
論文英語ライティングI	文芸学研究科 文芸学専攻 英 文学領域	1	1	英語で修士論文を執筆するために必要な英語ライティング力をつけることをめざす。英語がもはや英米人の言語という狭い枠組みを超えて、世界共通語(lingua franca)としての言語という性格を帯びつつあることを受けて、自分が発表した修士論文の読者が世界のどの国・地域の人であるかもしれないという前提に立って、英語で論文を書く態度も大切である。	1. 自信を持って英語で論文を書くことができる。(技能) 2. 常に読者を意識して、読みやすい文章を英語で書くことができる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現) 3. 論文としてふさわしい書き方ができる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現)	1. 英語で論文を書くことができる。(技能) 2. 読みやすい文章を英語で書くことができる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現) 3. 論文としてふさわしい書き方ができる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現)
論文英語ライティングII	文芸学研究科 文芸学専攻 英 文学領域	2	1	本科目の目的は、「論文英語ライティング演習I」のそれと同一である。「論文英語ライティング演習I」での学修を基盤としながら、論文執筆に必要なより高度な英語ライティング力を身につけることをめざす。	1. 自信を持って、世界中の誰が読んでもその内容がわかるような英語で論文を書くことができる。(技能) 2. 常に読者を意識して、自分の言いたいことが読者に伝わりやすい文章を英語で書くことができる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現) 3. 質の高い論文としてふさわしい書き方が十分に見える。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現)	1. 世界中の誰が読んでもその内容がわかるような英語で論文を書くことができる。(技能) 2. 自分の言いたいことが読者に伝わりやすい文章を英語で書くことができる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現) 3. 質の高い論文としてふさわしい書き方ができる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現)
英語学研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 英 文学領域	1	4	日本では「英語学」という学問領域名は linguistics(言語学)の訳語として用いられている。したがって、本科目の目的は、大きく2つある。(1)英語とはどのような言語であるのかということ考察すること。(2)人間の言語とはどのような特徴を持つのかということ考察すること。本科目では、英語および人間の言語の体系面に着目する。英語および人間の言語がどのように成り立っているのかということについて、深く研究することをめざす。	1. 英語学・言語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。(知識・理解)(思考・判断・表現) 2. 英語学・言語学の知識を十分に活用して、修士論文を執筆することができる。(知識・理解)(思考・判断・表現)	1. 英語学・言語学の幅広い事項について、他者に説明することができる。(知識・理解)(思考・判断・表現) 2. 英語学・言語学の知識を活用して、修士論文を執筆することができる。(知識・理解)(思考・判断・表現)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
英語学研究B	文芸学研究科 文芸学専攻 英 文学領域	1・2	4	英語および人間の言語が実際にどのように運用されているのかということについて、深く研究することをめざす。言語学の下位分野である語用論および社会言語学などを中心に研究する。	1. 英語および人間の言語の運用について、他者に正確に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 語用論や社会言語学などの知識を十分に活用して、修士論文を執筆することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 英語および人間の言語の運用について、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 語用論や社会言語学などの知識を活用して、修士論文を執筆することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
イギリス文学文化研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 英 文学領域	1	4	イギリス文学史の流れを歴史的・文化的背景に沿って再確認しつつ、19世紀までに発表された特定のイギリス文学作品を取り上げて、作品を精読する態度を涵養する。さらに、文学作品の研究手法・研究態度を身につけることもめざす。	1. 19世紀までのイギリス文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で十分に正しく理解している。（知識・理解） 2. 19世紀までに発表されたイギリス文学作品の特質を十分に理解している。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 本科目で学修したことを基盤として、修士論文の執筆に十分に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 19世紀までのイギリス文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で正しく理解している。（知識・理解） 2. 19世紀までに発表されたイギリス文学作品の特質を理解している。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 本科目で学修したことを基盤として、修士論文の執筆に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
イギリス文学文化研究B	文芸学研究科 文芸学専攻 英 文学領域	1・2	4	イギリス文学史の流れを歴史的・文化的背景に沿って再確認しつつ、20世紀以降に発表された特定のイギリス文学作品を取り上げて、作品を精読する態度を涵養する。さらに、文学作品の研究手法・研究態度を身につけることもめざす。	1. 20世紀以降のイギリス文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で十分に正しく理解している。（知識・理解） 2. 20世紀以降に発表されたイギリス文学作品の特質を十分に理解している。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 本科目で学修したことを基盤として、修士論文の執筆に十分に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 20世紀以降のイギリス文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で正しく理解している。（知識・理解） 2. 20世紀以降に発表されたイギリス文学作品の特質を理解している。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 本科目で学修したことを基盤として、修士論文の執筆に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
アメリカ文学文化研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 英 文学領域	1	4	アメリカ文学史の流れを歴史的・文化的背景に沿って再確認しつつ、19世紀までに発表された特定のアメリカ文学作品を取り上げて、作品を精読する態度を涵養する。さらに、文学作品の研究手法・研究態度を身につけることもめざす。	1. 19世紀までのアメリカ文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で十分に正しく理解している。（知識・理解） 2. 19世紀までに発表されたアメリカ文学作品の特質を十分に理解している。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 本科目で学修したことを基盤として、修士論文の執筆に十分に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 19世紀までのアメリカ文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で正しく理解している。（知識・理解） 2. 19世紀までに発表されたアメリカ文学作品の特質を理解している。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 本科目で学修したことを基盤として、修士論文の執筆に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
アメリカ文学文化研究B	文芸学研究科 文芸学専攻 英 文学領域	1・2	4	アメリカ文学史の流れを歴史的・文化的背景に沿って再確認しつつ、20世紀以降に発表された特定のアメリカ文学作品を取り上げて、作品を精読する態度を涵養する。さらに、文学作品の研究手法・研究態度を身につけることもめざす。	1. 20世紀以降のアメリカ文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で十分に正しく理解している。（知識・理解） 2. 20世紀以降に発表されたアメリカ文学作品の特質を十分に理解している。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 本科目で学修したことを基盤として、修士論文の執筆に十分に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 20世紀以降のアメリカ文学の流れを、歴史的・文化的背景の中で正しく理解している。（知識・理解） 2. 20世紀以降に発表されたアメリカ文学作品の特質を理解している。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 本科目で学修したことを基盤として、修士論文の執筆に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
英語文学批評研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 英 文学領域	1	4	英語で書かれた文学作品に対する批評の歴史のうち、英語文学の批評の成り立ちから、構造主義までについて、主要な批評を読み、研究する。文学批評のあり方や、個々の文学作品に対する批評史、作家と批評家の関係などについても研究する。	1. 英語で書かれた文学作品に対する批評の成り立ちから、構造主義までの文学批評の歴史について深く理解し、具体的な例をあげ、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 英語で書かれた文学に関する初期の批評から、構造主義までの文学批評と文学作品の受容の変遷について、十分に理解している。（知識・理解） 3. 本科目で学修したことを、修士論文の執筆に十分に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. 英語で書かれた文学作品に対する批評の成り立ちから、構造主義までの文学批評の歴史の概要を、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 英語で書かれた文学に関する初期の批評から、構造主義までの文学批評と文学作品の受容の変遷について、理解している。（知識・理解） 3. 本科目で学修したことを、修士論文の執筆に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
英語文学批評研究B	文芸学研究科 文芸学専攻 英 文学領域	1・2	4	英語で書かれた文学作品に対する批評の歴史のうち、構造主義の理解を踏まえ、ポスト構造主義およびそれ以降を研究する。文学批評のあり方や、文学批評のあり方や、個々の文学作品に対する批評史、作家と批評家の関係などについても研究する。	1. ポスト構造主義およびそれ以降の文学批評の歴史について深く理解し、具体的な例を挙げ、他者に正確に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. ポスト構造主義およびそれ以降の文学批評と文学作品の受容の変遷について、十分に理解している。（知識・理解） 3. 本科目で学修したことを、修士論文の執筆に十分に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）	1. ポスト構造主義およびそれ以降の文学批評の歴史の概要を、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. ポスト構造主義およびそれ以降の文学批評と文学作品の受容の変遷について、理解している。（知識・理解） 3. 本科目で学修したことを、修士論文の執筆に活用することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
劇文学論	文芸学研究科 文芸学専攻 演 劇学領域	1	4	劇文学とは、おもに演劇の台本、つまり戯曲を文学としてとらえるものである。この授業では、そのとらえ方が具体的にどういふものなのか具体的な演劇作品を取り上、その研究や評論、実際の上演舞台の映像なども参考にしながら、戯曲を読み、討論を行なっていくことによって明らかにしていく。	演劇に関するテキストを主体的に解釈することができる。（知識・理解）	演劇に関するテキストを正確に読むことができる。（知識・理解）
舞台美術論	文芸学研究科 文芸学専攻 演 劇学領域	1	4	舞台美術は、単に記号的に舞台の場面を示すのではなく、劇的な世界像そのものを呈示する構造物である。この授業では、様々な舞台美術に触れ、その機能や効果、それを成立させる根本的な考え方について学ぶ。	1. 舞台美術について論ずるための知識が十分に得られている。（知識・理解） 2. 個別の舞台美術のあり方について、その機能の特徴を具体的に論じることができる。（技能）（思考・判断・表現）	1. 舞台美術について論ずるための知識が一通り得られている。（知識・理解） 2. 個別の舞台美術のあり方について、その機能の特徴を概ね述べることができる。（技能）（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
中・近世日本演劇研究	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1	4	主として歌舞伎や人形浄瑠璃など近世演劇の作品を対象として、上演資料、劇評（評判記）などの一次資料も扱いながら、近世演劇研究をめぐる問題意識の持ち方や方法論を学ぶ。	1. 近世演劇やその作品について十分な知識を有し、自身の問題意識に繋げていくことができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 近世演劇に関する一次資料を扱う一定の技術を身につけている。（技能） 3. 自身の持ち得た知識をもとに、自身の研究を構築していくことができる。（思想・判断・表現）	1. 近世演劇やその作品についてある程度の知識を身につけることができる。（知識・理解） 2. 近世演劇に関する一次資料についての知識を身につけている。（知識・理解） 3. 与えられた課題について、先行研究や一次資料から得た情報を使いながら論じることができる。（思考・判断・表現）
近・現代日本演劇研究	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1	4	近現代の日本演劇を研究する上で重要な知識を確認する内容とする。演劇史についての理解を深め、同時に具体的な舞台作品を取り上げて戯曲を読み、どのように上演され、同時代の評価も捉えて考察を加えていく。	1.近現代の日本演劇史における重要なトピックについて正確な知識を身につけることができる。（知識・理解） 2.舞台作品の上演について深く考察する基礎技能を身につけることができる。（思考・判断・表現）	1.近現代の日本演劇史における重要なトピックについてある程度の知識を身につけることができる。（知識・理解） 2.舞台作品の上演について考察する基礎技能を身につけることができる。（思考・判断・表現）
英米演劇研究	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1	4	主として初期近代イギリスの演劇テキストを、まずは、基本構造あるいは作品の内容（主人公、プロット、テーマ）、次に、修辭的構造あるいはパフォーマンスの形式を理解する。そのうえで、演劇テキストを、ジェンダー・セクシュアリティの視点、およびグローバルな視点から読み解いていく。	英国の演劇を、テキストの基本的構造をおさえたうえで、グローバルなメディア文化における意味や価値を、歴史的に、解釈し理解することができるようになる。（知識・理解）	英文で書かれたイギリスの演劇テキストの基本構造（主人公・プロット・テーマ）を分析し、理解することができる。（知識・理解）
ヨーロッパ演劇研究	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1	4	近現代の西洋演劇の理論について英語資料を読み、それぞれの内容を理解していく。そのうえで、西洋演劇にかかわる、さまざまな情報を収集・整理して、演劇理論のあり方について議論を重ねてゆく。	1.英語で書かれた文献を十分に読みこなすことができる。（知識・理解）（技能） 2.演劇理論の総体を理解し、戯曲や上演について具体的に論じることができる。（技能）（思考・判断・表現）	1.英語で書かれた文献をある程度読むことができる。（知識・理解）（技能） 2.演劇理論の総体を基本的に理解し、戯曲や上演について論じることができる。（技能）（思考・判断・表現）
演劇学文献研究 A（中・近世日本演劇）	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1	4	主として歌舞伎や人形浄瑠璃など近世演劇に関する文献や資料を読む。先行研究から研究方法を学ぶとともに、近世演劇関係の一次資料を読む技術も養う。そのうえで、資料から得た情報を整理して、論を構築していく力をつける。	近世演劇に関する先行研究を理解し、自身の問題意識に繋げていくことができる（知識・理解）（思考・判断・表現）。 近世演劇関連の一次資料をある程度使いこなすことができる（技能）。 先行研究や一次資料から得た情報を組み立てて、自身の研究を構築していくことができる（思考・判断・表現）。	近世演劇に関する先行研究を読むことができる（知識・理解）。 近世演劇関連の一次資料の扱い方についての基礎が身につけている（技能）。 与えられた課題について、先行研究や一次資料から得た情報を使いながら論じることができる（思考・判断・表現）。
演劇学文献研究 B（近・現代日本演劇）	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1	4	近現代の日本演劇を研究するために必要な基礎研究の方法を身につける。資料のデジタル化やデータベースの整備が急速に進む一方で、紙媒体でしか確認できないものも多い。双方を使って演劇作品の内容や上演情報の検証をできるようにすることをめざす。	近現代の日本演劇に関する資料にはどのようなものがあるか理解し、的確に利用することができる（知識・理解）（思考・判断・表現）。 自らのテーマを明らかにするために必要な資料を収集、分析し、考察した内容をまとめ上げることができるようになる（技能）	近現代の日本演劇に関する資料にはどのようなものがあるか理解し、ある程度利用することができる（知識・理解）（思考・判断・表現）。 自らのテーマを明らかにするために必要な資料を収集、分析し、考察した内容をある程度まとめ上げることができるようになる（技能）
映画学研究	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1	4	様々な映画を鑑賞しながら、その映像の特色を捉え、製作者の意図や歴史的意義を捉える。文献講読により、映画を論ずるための多角的視点や術語を身につける。	1. 映画史について一般に求められるだけの知識を得て、個々の映画を映画史的文脈で捉えることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（技能）。 2. 映画学の基本的観点を踏まえ、個々の映画を論じることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（技能）。 3. 映画学の文献についての知識があり、自らアプローチすることができる。（知識・理解）（技能）。	1. 映画史について基礎的知識を得て、個々の映画をある程度映画史的な文脈で捉えることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（技能）。 2. 映画学の基本的観点を踏まえ、個々の映画を見ることができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（技能）。 3. 映画学の文献に自らアプローチすることができる。（技能）。
芸術論基礎研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	美術史学の方法論について学び、研究の実践に役立てるばかりでなく、イメージの性質、その生成と受容、機能、芸術という営み自体について理解を深める。方法論的な考察を通して、美術のみならず、文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座を身につける。	①美術史学の方法論について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ②イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ③方法論を応用して高度な研究を行い、研究発表、レポートを作成することができる。（思考・判断・表現） ④文学・芸術・文化の研究全般に寄与する高度な視座を研究発表、レポートに反映させることができる。（関心・意欲・態度）	①美術史学の方法論について基本的な知識を持ち、説明することができる。（知識・理解） ②イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、基本的な知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ③方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現） ④文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座もっている。（関心・意欲・態度）
比較芸術研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	美術史に足場を置き、特定の時代・地域・ジャンル・芸術家を対象として、表現形式や内容に、異なる時代や地域の影響、芸術家相互の影響、社会的機能がどのように作用しているかを理解する。それに加えて、作品がどのように受容されたか、複合的な観点から他の芸術領域との関係についても考察する。	①美術作品の表現形式や内容に見られる諸種の影響について高度な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ②作品の受容について高度な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ③複合的な観点からさまざまな芸術領域との関係について深く考察し、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現）	①美術作品の表現形式や内容に見られる諸種の影響について知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ②作品の受容について知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ③複合的な観点からさまざまな芸術領域との関係について考察し、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
比較文学研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	文学に関する基本理論について多角的に捉え、文学の蘊奥を攻究しつつ、その上でフランス語圏の特定の時代、特定の地域、特定のジャンル、あるいは特定の文学者、詩人、芸術家を対象として、その様式の展開、背景となる文芸潮流、表現内容、意味作用、異なるジャンル間の影響関係、社会的機能などが作品にどのように作用しているか、作品がどのように受容されているかについて検討する。	1. フランス語の文献を正確に読解できる。(知識・理解) 2. フランス語のテキストの文脈を理解し、日本語で正確に説明できる。(知識・理解) 3. フランス語圏の文学・芸術を、自身の文化とも比較しながら、正確に関係づけることができる。(思考・判断・表現) 4. 文学・芸術の比較において、多面的・総合的に系統立てることができる。(思考・判断・表現)	1. フランス語の文献をおおまかに読解できる。(知識・理解) 2. フランス語のテキストの文脈を部分的に理解し、日本語で説明できる。(知識・理解) 3. フランス語圏の文学・芸術を、自身の文化とも比較しながら、関係づけることができる。(思考・判断・表現) 4. 文学・芸術の比較において、系統立てることができる。(思考・判断・表現)
文芸と歴史研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	この授業では、織田信長の一代記として最も良質かつ重要な史料である太田牛一『信長公記』等の軍記物語を中心素材として、日本の前近代社会の諸様相を歴史学の方法論を用いて教授していく。必要に応じて、原本の写真版のほか、関連資料も参照して読みすすめていく。	1.日本の前近代社会と、それに関連する史料についての深い知識を習得している。(知識・理解) 2.日本の前近代社会の史料・歴史書を正確に読解する能力が身につけている。(技能) 3.日本の前近代社会の社会変動と文学・芸術の関係について理解している。(知識・理解) 4.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を積極的に行うことができる。(思考・判断・表現) 5.文学・芸術・歴史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨んでいる。(関心・意欲・態度)	1.日本の前近代社会と、それに関連する史料についての概要を習得している。(知識・理解) 2.日本の前近代社会の史料・歴史書を一通り読解する能力が身につけている。(技能) 3.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。(思考・判断・表現) 4.文学・芸術・歴史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に臨んでいる。(関心・意欲・態度)
文芸とメディア研究	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	文学・芸術を柱として高度な研究を志す者にとって、その成果を伝達することを通じて、文化の次なる担い手の豊かな人間性を形成することはいわば責務である。ここでは、そのための営みである教育を「知の総合伝達メディア」ととらえ、各自の専門研究成果をコンテンツとしてその伝達実践力を高めるための討議の場とする。	・知の総合伝達メディアとしての教育について確かな認識をもつ。(知識・理解) (関心・意欲・態度) ・専攻分野における自らの研究テーマの位置づけ、意義づけをする。(技能) (思考・判断・表現) ・研究成果を他者に伝達することを研究者の責務として自覚する。(関心・意欲・態度) ・研究の進捗状況報告と質疑応答を通して、クリティカルマインドを鍛える。(技能) (関心・意欲・態度) ・文学、芸術分野について学ぼうとする者のニーズに応じられる確かな指導能力を修練する。(技能) (関心・意欲・態度) ・文学、芸術、メディアの専門分野についての継続研究に向う意欲をもつ。(関心・意欲・態度)	・知の総合伝達メディアとしての教育について理解する。(知識・理解) (関心・意欲・態度) ・研究テーマを紹介し、テーマ設定の趣旨を説明する。(技能) (思考・判断・表現) ・研究成果を他者（次なる文化の担い手）に伝達することの意義を考える。(関心・意欲・態度) ・研究の進捗状況を報告し合い、クリティカルマインドを身につける。(技能) (関心・意欲・態度) ・知の総合伝達メディアとしての教育に主体的に関わる態度をこころがける。(関心・意欲・態度)
文芸学特講ⅠA (フランスの文学と社会)	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	フランスの小説、詩、戯曲あるいは批評などの文学作品を読解する。そして、宗教と世俗の関係、階級の変動、教育の普及、さらに男女の「社会的関係」などを理解し、これらの社会的表象とその表象との関係を考察していく。原文を十分に尊重しながら、信頼のおける翻訳を速読、精読していく。	・フランスの文学作品をよく理解し、深く味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。(知識・理解) ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて適切に意味づけることができる。(関心・意欲・態度) ・社会的表象とその表象との関係を十分に理解し、作品を分析することができる。(思考・判断・表現)	・フランスの文学作品を大まかに理解し、味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。(知識・理解) ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて自分なりに意味づけることができる。(関心・意欲・態度) ・社会的表象とその表象との関係の概略を理解し、作品を分析することができる。(思考・判断・表現)
文芸学特講ⅠB (フランスの文学と文化)	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	フランス語圏の小説、詩、戯曲あるいは批評などの文学作品を読解する。そして、宗教、思想あるいは風習など「文化的背景」を理解していくことで、これらの文化的背景とその表象との関係を考察していく。原文を十分に尊重しながら、信頼のおける翻訳を速読、精読していく。	・フランス語圏の文学作品をよく理解し、深く味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。(知識・理解) ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて適切に意味づけることができる。(関心・意欲・態度) ・文化的背景とその表象との関係を十分に理解し、作品を分析することができる。(思考・判断・表現)	・フランス語圏の文学作品を大まかに理解し、味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。(知識・理解) ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて自分なりに意味づけることができる。(関心・意欲・態度) ・文化的背景とその表象との関係の概略を理解し、作品を分析することができる。(思考・判断・表現)
文芸学特講ⅡA (欧米の書誌学)	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	欧米の書誌学に関するフランス語の基本的文献を用いて、個々の図書物理的特徴(書誌事項)を記述する分析書誌学、一定の方式によって文献の書誌事項を配列した書誌(文献リスト)、欧米における書誌学についての知識を得る。その上で実際に書誌の活用の可能性を模索する。	1. 書誌に関する資料を正確に読解できる。(知識・理解) 2. 書誌の活用方法を日本語で正確に説明できる。(知識・理解) 3. 実際にモデルとなる文献リストを作成することができる。(知識・理解) (技能) 4. 書誌の活用法を複数提示することができる。(思考・判断・表現)	1. 書誌に関する資料を読解できる。(知識・理解) 2. 書誌の活用方法を日本語で説明できる。(知識・理解) 3. 実際にモデルとなる文献リストの下書きを作成することができる。(知識・理解) (技能) 4. 書誌の活用法を一項目提示することができる。(思考・判断・表現)
文芸学特講ⅡB (メディアの日本比較)	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	文学・芸術を柱として高度な研究を志す者にとって、その成果を伝達することを通じて、文化の次なる担い手の豊かな人間性を形成することはいわば責務である。そのための営みである広義の教育を、ここでは「知の総合伝達メディア」ととらえ、例えばI.IllichのDeschooling Society、L.MastermanのTeaching The Media など、知の伝達とメディアの本質をめぐる研究・論考の中からテキストを選び、輪読・精読する。	・テキストを自在に読解し、分析・批評する。(知識・理解) (技能) (思考・判断・表現) ・民主主義とメディアについて確かな課題認識をもつ。(知識・理解) (関心・意欲・態度) ・文学、芸術を柱とする知の総合伝達メディアとしての教育に主体的に関わる。(技能) ・研究成果の伝達のための具体的・実践的方法を提案・実践する。(技能) (思考・判断・表現)	・テキストの輪読に主体的に参加する。(関心・意欲・態度) ・民主主義社会におけるメディアの意味について理解する。(知識・理解) ・文化の伝達はおおよそ高等専門教養を身につけた者の責務であることを認識する。(関心・意欲・態度) ・「知の総合伝達メディア」としての教育が文学・芸術の創造に貢献する方策を探し続けることができる。(技能) (関心・意欲・態度)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸学特講III A (世界の文学と文化)	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	世界各地の文学と文化は、それぞれの地域に独自の要素と共通する要素を背景にして誕生し、発展してきた。また、個々に展開するのではなく、お互いに影響し合って発展してきた。こうした背景を理解しつつ、幅広い文学作品を読解し、鑑賞する。	・文学・芸術作品の表現を、時代や地域の背景を踏まえた上で、正確に理解することができる。（知識・理解） ・中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを積極的に探し、比較することができる。（関心・意欲・態度） ・扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で独創的な考察を展開することができる。（思考・判断・表現）	・文学・芸術作品の表現を、時代や地域の背景を踏まえた上で、理解することができる。（知識・理解） ・中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを探し、比較することができる。（関心・意欲・態度） ・扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で自分なりに考察を展開することができる。（思考・判断・表現）
文芸学特講III B (日本の文学と美術)	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	美術作品を通じて、テキストとイメージが相互に補完し合って成立する文化について理解する。古代から近世の美術作品の銘文・詞書・資料の翻刻や現代語訳、また画面の様式分析を行う能力を身に付ける。その上で、美術制作の社会的な意義について、信仰や政治などとの関係性から理解を深める。	①古代から近世に至る美術の主要作品について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ②くずし字や漢文が十分読めるようになり、翻刻や現代語訳ができる。（技能） ③学術書の構造を十分に理解し、自ら主体的に読みこなせるようになる。（知識・理解）（技能） ④美術制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から考察する視点を十分獲得している。（関心・意欲・態度）	①古代から近世に至る美術の主要作品について基本的な知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ②くずし字や漢文がある程度読めるようになり、基本的な翻刻や現代語訳ができる。（技能） ③学術書の構造をある程度理解し、基本的な事柄が読解できる。（知識・理解）（技能） ④美術制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から考察する視点を部分的に獲得している。（関心・意欲・態度）
芸術論基礎研究 A	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	美術史学の方法論について学び、研究の実践に役立てるばかりでなく、イメージの性質、その生成と受容、機能、芸術という営み自体について理解を深める。方法論的な考察を通して、美術のみならず、文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座を身につける。	①美術史学の方法論について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ②イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ③方法論を応用して高度な研究を行い、研究発表、レポートを作成することができる。（思考・判断・表現） ④文学・芸術・文化の研究全般に寄与する高度な視座を研究発表、レポートに反映させることができる。（関心・意欲・態度）	①美術史学の方法論について基本的な知識を持ち、説明することができる。（知識・理解） ②イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、基本的な知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ③方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現） ④文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座をもち持っている。（関心・意欲・態度）
芸術論基礎研究 B	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	美術史学の方法論について学び、研究の実践に役立てるばかりでなく、イメージの性質、その生成と受容、機能、芸術という営み自体について理解を深める。方法論的な考察を通して、美術のみならず、文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座を身につける。	①美術史学の方法論について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ②イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ③方法論を応用して高度な研究を行い、研究発表、レポートを作成することができる。（思考・判断・表現） ④文学・芸術・文化の研究全般に寄与する高度な視座を研究発表、レポートに反映させることができる。（関心・意欲・態度）	①美術史学の方法論について基本的な知識を持ち、説明することができる。（知識・理解） ②イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、基本的な知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ③方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現） ④文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座をもち持っている。（関心・意欲・態度）
比較芸術研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	美術史に足場を置き、特定の時代・地域・ジャンル・芸術家を対象として、表現形式や内容に、異なる時代や地域の影響、芸術家相互の影響、社会的機能がどのように作用しているかを理解する。それに加えて、作品がどのように受容されたか、複合的な観点から他の芸術領域との関係についても考察する。	①美術作品の表現形式や内容に見られる諸種の影響について高度な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ②作品の受容について高度な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ③複合的な観点からさまざまな芸術領域との関係について深く考察し、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現）	①美術作品の表現形式や内容に見られる諸種の影響について知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ②作品の受容について知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ③複合的な観点からさまざまな芸術領域との関係について考察し、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現）
比較芸術研究B	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	美術史に足場を置き、特定の時代・地域・ジャンル・芸術家を対象として、表現形式や内容に、異なる時代や地域の影響、芸術家相互の影響、社会的機能がどのように作用しているかを理解する。それに加えて、作品がどのように受容されたか、複合的な観点から他の芸術領域との関係についても考察する。	①美術作品の表現形式や内容に見られる諸種の影響について高度な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ②作品の受容について高度な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ③複合的な観点からさまざまな芸術領域との関係について深く考察し、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現）	①美術作品の表現形式や内容に見られる諸種の影響について知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ②作品の受容について知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ③複合的な観点からさまざまな芸術領域との関係について考察し、研究発表、レポート作成を行うことができる。（思考・判断・表現）
比較文学研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	文学に関する基本理論について多角的に捉え、フランス語圏の特定の時代、特定の地域、特定のジャンル、あるいは特定の文学者、詩人、芸術家を対象として、その様式の展開、背景となる文芸潮流、表現内容、意味作用、異なるジャンル間の影響関係、社会的機能などが作品にどのように作用しているか、作品がどのように受容されているかについて検討する。	1. フランス語の文献を正確に読解できる。（知識・理解） 2. フランス語のテキストの文脈を理解し、日本語で正確に説明できる。（知識・理解） 3. フランス語圏の文学・芸術を、自身の文化とも比較しながら、正確に関係づけることができる。（思考・判断・表現） 4. 文学・芸術の比較において、多面的・総合的に系統立てることができる。（思考・判断・表現）	1. フランス語の文献をおおまかに読解できる。（知識・理解） 2. フランス語のテキストの文脈を部分的に理解し、日本語で説明できる。（知識・理解） 3. フランス語圏の文学・芸術を、自身の文化とも比較しながら、関係づけることができる。（思考・判断・表現） 4. 文学・芸術の比較において、系統立てることができる。（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
比較文学研究B	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	文学に関する基本理論について多角的に捉え、フランス語圏の特定の時代、特定の地域、特定のジャンル、あるいは特定の文学者、詩人、芸術家を対象として、その様式の展開、背景となる文芸潮流、表現内容、意味作用、異なるジャンル間の影響関係、社会的機能などが作品にどのように作用しているか、作品がどのように受容されているかについて検討する。	1. フランス語の文献を正確に読解できる。(知識・理解) 2. フランス語のテキストの文脈を理解し、日本語で正確に説明できる。(知識・理解) 3. フランス語圏の文学・芸術を、自身の文化とも比較しながら、正確に関係づけることができる。(思考・判断・表現) 4. 文学・芸術の比較において、多面的・総合的に系統立てることができる。(思考・判断・表現)	1. フランス語の文献をおおまかに読解できる。(知識・理解) 2. フランス語のテキストの文脈を部分的に理解し、日本語で説明できる。(知識・理解) 3. フランス語圏の文学・芸術を、自身の文化とも比較しながら、関係づけることができる。(思考・判断・表現) 4. 文学・芸術の比較において、系統立てることができる。(思考・判断・表現)
比較文化研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	文化に関する基本理論について多角的に捉え、フランス語圏の特定の時代、特定の地域、特定のジャンル、あるいは特定の文学者、詩人、芸術家を対象として、その様式の展開、背景となる文芸潮流、表現内容、意味作用、異なるジャンル間の影響関係、社会的機能などが作品にどのように作用しているか、作品がどのように受容されているかについて検討する。	1. フランス語の文献を正確に読解できる。(知識・理解) 2. フランス語のテキストの文脈を理解し、日本語で正確に説明できる。(知識・理解) 3. フランス語圏の文化・芸術を、自身の文化とも比較しながら、正確に関係づけることができる。(思考・判断・表現) 4. 文学・芸術の比較において、多面的・総合的に系統立てることができる。(思考・判断・表現)	1. フランス語の文献をおおまかに読解できる。(知識・理解) 2. フランス語のテキストの文脈を部分的に理解し、日本語で説明できる。(知識・理解) 3. フランス語圏の文化・芸術を、自身の文化とも比較しながら、関係づけることができる。(思考・判断・表現) 4. 文学・芸術の比較において、系統立てることができる。(思考・判断・表現)
比較文化研究B	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	文化に関する基本理論について多角的に捉え、フランス語圏の特定の時代、特定の地域、特定のジャンル、あるいは特定の文学者、詩人、芸術家を対象として、その様式の展開、背景となる文芸潮流、表現内容、意味作用、異なるジャンル間の影響関係、社会的機能などが作品にどのように作用しているか、作品がどのように受容されているかについて検討する。	1. フランス語の文献を正確に読解できる。(知識・理解) 2. フランス語のテキストの文脈を理解し、日本語で正確に説明できる。(知識・理解) 3. フランス語圏の文化・芸術を、自身の文化とも比較しながら、正確に関係づけることができる。(思考・判断・表現) 4. 文学・芸術の比較において、多面的・総合的に系統立てることができる。(思考・判断・表現)	1. フランス語の文献をおおまかに読解できる。(知識・理解) 2. フランス語のテキストの文脈を部分的に理解し、日本語で説明できる。(知識・理解) 3. フランス語圏の文化・芸術を、自身の文化とも比較しながら、関係づけることができる。(思考・判断・表現) 4. 文学・芸術の比較において、系統立てることができる。(思考・判断・表現)
歴史文化研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	この授業では、軍記物語等の物語文学を中心に絵巻物・屏風絵などの絵画史料を補助素材として、日本の前近代社会の文化とその諸様相を歴史学の方法論を用いて教授していく。必要に応じて、原本の写真版のほか、関連資料も参照して読みすすめていく。	1.日本の前近代社会と、それに関連する史料についての深い知識を習得している。(知識・理解) 2.日本の前近代社会の史料・歴史書を正確に読解する能力が身につけている。(技能) 3.日本の前近代社会の社会変動と文学・芸術の関係について理解している。(知識・理解) 4.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を積極的に行うことができる。(思考・判断・表現) 5.文学・芸術・歴史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨んでいる。(関心・意欲・態度)	1.日本の前近代社会と、それに関連する史料についての概要を習得している。(知識・理解) 2.日本の前近代社会の史料・歴史書を一通り読解する能力が身につけている。(技能) 3.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。(思考・判断・表現) 4.文学・芸術・歴史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に臨んでいる。(関心・意欲・態度)
歴史文化研究B	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	この授業では、絵巻物・屏風絵等の絵画史料を中心に軍記物語等の物語文学を補助教材として、日本の前近代社会の文化とその諸様相を歴史学の方法論を用いて教授していく。必要に応じて、原本の写真版のほか、関連資料も参照して読みすすめていく。	1.日本の前近代社会と、それに関連する史料についての深い知識を習得している。(知識・理解) 2.日本の前近代社会の史料・歴史書を正確に読解する能力が身につけている。(技能) 3.日本の前近代社会の社会変動と文学・芸術の関係について理解している。(知識・理解) 4.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を積極的に行うことができる。(思考・判断・表現) 5.文学・芸術・歴史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨んでいる。(関心・意欲・態度)	1.日本の前近代社会と、それに関連する史料についての概要を習得している。(知識・理解) 2.日本の前近代社会の史料・歴史書を一通り読解する能力が身につけている。(技能) 3.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。(思考・判断・表現) 4.文学・芸術・歴史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に臨んでいる。(関心・意欲・態度)
現代文化研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	現代におけるさまざまな文化事象について、個別事例を用いつつ、俯瞰的な観点を涵養する。	1. 現代の文化事象について説明できるようになる(知識・理解)。 2. みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようにになる(思考・判断)。 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる(表現・技能)。	1. 現代の文化事象について具体例を挙げられる(知識・理解)。 2. みずから問いを立て、自分なりに考察し、それを表現できるようにになる(思考・判断)。 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるためにある程度適切に応用することができるようになる(表現・技能)。
現代文化研究B	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	現代におけるさまざまな文化事象について、俯瞰的な観点から個別事例を考察する。	1. 現代の文化事象について説明できるようになる(知識・理解)。 2. みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようにになる(思考・判断)。 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる(表現・技能)。	1. 現代の文化事象について具体例を挙げられる(知識・理解)。 2. みずから問いを立て、自分なりに考察し、それを表現できるようにになる(思考・判断)。 3. この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるためにある程度適切に応用することができるようになる(表現・技能)。
文芸とメディア研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	文学・芸術を柱として高度な研究を志す者にとって、得られた知を客観性をもって表現し伝達することは責務である。研究を客観的に進める方法は調査、実験、観察、文書の内容分析など各種ある。ここでは、社会調査法を手掛かりに研究方法を紹介するとともに、各自の専門性に照らし合わせ研究計画及びその方法について議論し、自分とは異なった研究方法を理解するとともに、各自の研究手法の決定あるいは検証の場とする。	・自身の研究計画を明確に他者に伝えられる。(知識・理解)(技能)(関心・意欲・態度)(思考・判断・表現) ・自身とは異なった研究方法を理解し批評できる。(知識・理解)(関心・意欲・態度)(思考・判断・表現) ・文学、芸術を柱とする多様な研究方法を理解し説明できる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現) ・研究成果を客観的に表現する方略を立てられる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現)	・自身の研究計画を明確にする。(知識・理解)(関心・意欲・態度) ・自身とは異なった研究方法を理解できる。(知識・理解)(関心・意欲・態度) ・文学、芸術を柱とする多様な研究方法を理解する。(知識・理解)(技能) ・研究成果を客観的にまとめる法術を示せる。(知識・理解)(技能)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸とメディア研究B	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	文学・芸術を柱として高度な研究を志す者にとって、その成果を伝達することを通じて、文化の次なる担い手の豊かな人間性を形成することはいわば責務である。ここでは、そのための営みである教育を「知の総合伝達メディア」ととらえ、各自の専門研究成果をコンテンツとしてその伝達実践力を高めるための討議の場とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・知の総合伝達メディアとしての教育について確かな認識をもつ。（知識・理解）（関心・意欲・態度） ・専攻分野における自らの研究テーマの位置づけ、意義づけをする。（技能）（思考・判断・表現） ・研究成果を他者に伝達することを研究者の責務として自覚する。（関心・意欲・態度） ・研究の進捗状況報告と質疑応答を通して、クリティカルマインドを鍛える。（技能）（関心・意欲・態度） ・文学、芸術分野について学ぶとする者のニーズに応じられる確かな指導能力を修練する。（技能）（関心・意欲・態度） ・文学、芸術、メディアの専門分野についての継続研究に向う意欲をもつ。（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・知の総合伝達メディアとしての教育について理解する。（知識・理解）（関心・意欲・態度） ・研究テーマを紹介し、テーマ設定の趣旨を説明する。（技能）（思考・判断・表現） ・研究成果を他者（次なる文化の担い手）に伝達することの意義を考える。（関心・意欲・態度） ・研究の進捗状況を報告し合い、クリティカルマインドを身につける。（技能）（関心・意欲・態度） ・知の総合伝達メディアとしての教育に主体的に関わる態度をとることができる。（関心・意欲・態度）
文化とメディア研究A	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	文化やメディアを学ぶことは、人々の営みやコミュニケーションの在り方に目を向け、その背景や歴史について理解することである。文化とメディア・コミュニケーションに関連する文献や資料を読解し、分析枠組みや方法論を身につけ、理論的研究基盤を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ①文化とメディア・コミュニケーションに関する理論や方法論について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ②文化とメディア・コミュニケーションに関する先行研究を理解し、かつコンテキストを踏まえたうえで、批判的に読解できる。（思考・判断・表現） ③先行研究やテキストから習得した理論や分析枠組みを、自らの研究に適切に応用することができる（関心・意欲・態度） 	<ul style="list-style-type: none"> ①文化とメディア・コミュニケーションに関する理論や方法論について基礎的な知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ②文化とメディア・コミュニケーションに関する先行研究を理解し、批判的に読解できる。（思考・判断・表現） ③先行研究やテキストから習得した理論や分析枠組みを、自らの研究にある程度反映することができる（関心・意欲・態度）
文化とメディア研究B	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	4	文化とメディア・コミュニケーションに関連する視覚資料（映像作品、CM、データベースやアーカイブなど）を用いながら、実践的にメディアと文化を解釈するスキル身につける。国内外や時代の異なる文化・メディアとの比較を通じて、その背景にある、重層的かつ多様な価値観についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ①文化とメディア・コミュニケーションに関する理論や分析枠組みを援用しながら、適切に資料を分析・考察・解釈することができる。（技能） ②資料調査や映像分析を専門的な知識に基づいて実践できる。（知識・理解） ③多様な価値観や異文化に対する寛容な思考態度を十分に備え、分析・考察することができる。（思考・判断・表現） ④視覚資料の分析を通じて、実践的に習得した理論や分析枠組みを、自らの研究に適切に応用することができる（関心・意欲・態度） ⑤文化的・歴史的背景を十分理解したうえで、自らのテーマを当該分野に寄与すべく、研究発表・レポートに反映させることができる。（知識・理解） 	<ul style="list-style-type: none"> ①文化とメディア・コミュニケーションに関する基礎的な理論や分析枠組みを理解し、資料を分析・考察・解釈することができる。（技能） ②資料調査や映像分析のある程度専門的な知識に基づいて実践できる。（知識・理解） ③多様な価値観や異文化に対する寛容な思考態度を備え、分析・考察することができる。（思考・判断・表現） ④視覚資料の分析を通じて習得した理論や分析枠組みを、自らの研究のなかである程度実践することができる（関心・意欲・態度） ⑤文化的・歴史的背景を理解したうえで、自らのテーマを当該分野に寄与すべく、研究発表・レポートに反映させることができる。（知識・理解）
文芸学特講ⅠA	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	フランス語で書かれた文学・芸術作品（小説、詩、戯曲、舞台芸術、エッセー、あるいは批評など）を読解する。文化背景、歴史、社会的事象とその表象との関係を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスの文学作品をよく理解し、深く味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。（知識・理解） ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて適切に意味づけることができる。（関心・意欲・態度） ・社会的事象とその表象との関係を十分に理解し、作品を分析することができる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスの文学作品を大まかに理解し、味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。（知識・理解） ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて自分なりに意味づけることができる。（関心・意欲・態度） ・社会的事象とその表象との関係の概略を理解し、作品を分析することができる。（思考・判断・表現）
文芸学特講ⅠB	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	フランス語で書かれた文学・芸術作品（小説、詩、戯曲、舞台芸術、エッセー、あるいは批評など）を読解する。文化背景、歴史、社会的事象とその表象との関係を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語圏の文学作品をよく理解し、深く味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。（知識・理解） ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて適切に意味づけることができる。（関心・意欲・態度） ・文化的背景とその表象との関係を十分に理解し、作品を分析することができる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語圏の文学作品を大まかに理解し、味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。（知識・理解） ・文学作品の主題を自らの経験にひきつけて自分なりに意味づけることができる。（関心・意欲・態度） ・文化的背景とその表象との関係の概略を理解し、作品を分析することができる。（思考・判断・表現）
文芸学特講ⅡA	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	外国語の基本的文献を用いて、欧米における書誌学についての知識を得る。その上で実際に書誌の活用の可能性を模索する。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 書誌に関する資料を正確に読解できる。（知識・理解） 2. 書誌の活用方法を日本語で正確に説明できる。（知識・理解） 3. 実際にモデルとなる文献リストを作成することができる。（知識・理解）（技能） 4. 書誌の活用法を複数提示することができる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 書誌に関する資料を読解できる。（知識・理解） 2. 書誌の活用方法を日本語で説明できる。（知識・理解） 3. 実際にモデルとなる文献リストの下書きを作成することができる。（知識・理解）（技能） 4. 書誌の活用法を一項目提示することができる。（思考・判断・表現）
文芸学特講ⅡB	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	外国語の基本的文献を用いて、欧米における書誌学についての知識を得る。その上で実際に書誌の活用の可能性を模索する。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 書誌に関する資料を正確に読解できる。（知識・理解） 2. 書誌の活用方法を日本語で正確に説明できる。（知識・理解） 3. 実際にモデルとなる文献リストを作成することができる。（知識・理解）（技能） 4. 書誌の活用法を複数提示することができる。（思考・判断・表現） 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 書誌に関する資料を読解できる。（知識・理解） 2. 書誌の活用方法を日本語で説明できる。（知識・理解） 3. 実際にモデルとなる文献リストの下書きを作成することができる。（知識・理解）（技能） 4. 書誌の活用法を一項目提示することができる。（思考・判断・表現）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
文芸学特講III A	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	世界各地の文学と文化は、それぞれの地域に独自の要素と共通する要素を背景にして誕生し、発展してきた。また、個々に展開するのではなく、お互いに影響し合って発展してきた。こうした背景を理解しつつ、文化の在り方に力点を置いて幅広い文学作品を読解し、鑑賞する。	・文学・芸術作品の表現を、時代や地域の背景、文化の在り方を踏まえた上で、正確に理解することができる。（知識・理解） ・中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを積極的に探し、比較することができる。（関心・意欲・態度） ・扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で独創的な考察を展開することができる。（思考・判断・表現）	・文学・芸術作品の表現を、時代や地域の背景、文化の在り方を踏まえた上で、理解することができる。（知識・理解） ・中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを探し、比較することができる。（関心・意欲・態度） ・扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で自分なりに考察を展開することができる。（思考・判断・表現）
文芸学特講III B	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	世界各地の文学と文化は、それぞれの地域に独自の要素と共通する要素を背景にして誕生し、発展してきた。また、個々に展開するのではなく、お互いに影響し合って発展してきた。こうした背景を理解しつつ、文学・芸術のかたちに力点を置いて幅広い文学作品を読解し、鑑賞する。	・文学・芸術作品のかたちを、時代や地域の背景を踏まえた上で、正確に理解することができる。（知識・理解） ・中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを積極的に探し、比較することができる。（関心・意欲・態度） ・扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で独創的な考察を展開することができる。（思考・判断・表現）	・文学・芸術作品のかたちを、時代や地域の背景を踏まえた上で、理解することができる。（知識・理解） ・中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを探し、比較することができる。（関心・意欲・態度） ・扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で自分なりに考察を展開することができる。（思考・判断・表現）
文芸学特講IV A	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	美術作品を通じて、テキストとイメージが相互に補完し合って成立する文化について理解する。古代から近世の美術作品の銘文・詞書・資料の翻刻や現代語訳、また画面の様式分析を行う能力を身に付ける。その上で、美術制作の社会的な意義について、信仰や政治などとの関係性から理解を深める。	①古代から近世に至る美術の主要作品について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ②くずし字や漢文が十分読めるようになり、翻刻や現代語訳ができる。（技能） ③学術書の構造を十分に理解し、自ら主体的に読みこなせるようになる。（知識・理解）（技能） ④美術制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から考察する視点を十分獲得している。（関心・意欲・態度）	①古代から近世に至る美術の主要作品について基本的な知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ②くずし字や漢文がある程度読めるようになり、基本的な翻刻や現代語訳ができる。（技能） ③学術書の構造をある程度理解し、基本的な事柄が読解できる。（知識・理解）（技能） ④美術制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から考察する視点を部分的に獲得している。（関心・意欲・態度）
文芸学特講IV B	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1	2	美術作品を通じて、テキストとイメージが相互に補完し合って成立する文化について理解する。古代から近世の美術作品の銘文・詞書・資料の翻刻や現代語訳、また画面の様式分析を行う能力を身に付ける。その上で、美術制作の社会的な意義について、信仰や政治などとの関係性から理解を深める。	①古代から近世に至る美術の主要作品について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。（知識・理解） ②くずし字や漢文が十分読めるようになり、翻刻や現代語訳ができる。（技能） ③学術書の構造を十分に理解し、自ら主体的に読みこなせるようになる。（知識・理解）（技能） ④美術制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から考察する視点を十分獲得している。（関心・意欲・態度）	①古代から近世に至る美術の主要作品について基本的な知識をもち、説明することができる。（知識・理解） ②くずし字や漢文がある程度読めるようになり、基本的な翻刻や現代語訳ができる。（技能） ③学術書の構造をある程度理解し、基本的な事柄が読解できる。（知識・理解）（技能） ④美術制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から考察する視点を部分的に獲得している。（関心・意欲・態度）
論文研究	文芸学研究科 文芸学専攻 論文指導	2	2	修士論文を完成するための実際的な知識と技能を身に付ける。修士論文の提出期限に合わせ、計画的に調査・分析・考察・執筆を行い、論文の完成を目指す。	①修士論文を完成するための実際的な知識が十分身についている。（知識・理解） ②修士論文を完成するための実際的な技能が十分身についている。（技能） ③計画的に調査・分析・考察・執筆ができており、修士論文が完成している。（思考・判断・表現）	①修士論文を完成するための基礎的な知識が身に付いている。（知識・理解） ②修士論文を完成するための基礎的な技能が身に付いている。（技能） ③計画的に調査・分析・考察・執筆ができています。（思考・判断・表現）